

新しい時代の 特別支援教育の 実現に向けて



新潟県特別支援教育研究会
会長 江口 滋

この夏、東京2020オリンピック・パラリンピックが開かれました。選手の高い技術と磨き上げた精神力が伝わってくる大会でした。本県から出場した選手も素晴らしいパフォーマンスを発揮しました。持てる力を伸ばすため自ら鍛え続け、大舞台で自分の競技に徹した各選手から生きる力と勇気を得た思いがします。今後のさらなる活躍を期待したいと思います。

令和3年度も半ばを迎えました。各校では当初から新型コロナウイルス感染症拡大防止への取組を徹底しながら日々の教育活動を進めていることと思います。児童・生徒へ個別の指導・支援を確実に進めるためにも感染予防対策の徹底と継続は欠かせません。先が見通せない状況が続きますが、それぞれの立場で確かな歩みを進めていきましょう。

さて、今年度は、特別支援教育が始まった平成19年度から数えて15年目を迎えています。その中であって、今年1月には文部科学省から「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議」の報告書が発表されました。報告書の「特別支援教育を巡る状況と基本的な考え方」には、「共生社会の形成に向けて、障害者の権利条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念が重要」であり、その構築のために特

別支援教育の取組の進展が大切であると示されています。さらに具体的な方策として、障害のある子どもの学びの場の整備・連携強化、特別支援教育を担う教師の専門性の向上、ICTの活用による特別支援教育の質の向上、関係機関の連携強化による切れ目のない支援の充実が掲げられています。特別支援教育を受ける子どもは新潟県・新潟市共に毎年増えています。特別支援学級や通級指導教室の学級数も増加しています。初めて特別支援学級や通級指導教室を担当する教師も増えています。このことも踏まえながら、新潟県特別支援教育研究会としても「特別支援教育を巡る状況と基本的な考え方」に基づく方策の円滑な実現に向けて取組を進めていきたいと考えています。

ところで、新型コロナウイルスの感染症の拡大は、日常の生活様式だけでなく、研修の形態や参加方法にも変化をもたらしています。それまでの研修といえば一堂に会して行うことが定番でした。しかし、それが難しくなったことによりオンラインによる研修会等が増えていることは、皆さんご存じの通りです。今年度、当研究会専門部でもZoomによる研修会や講演会を計画・実施しています。講演会後には、自校の一室で複数の先生方と共に視聴することができたという事例や、出張による研修会等への参加が難しい介助員や特別支援教育支援員が視聴できてありがたかったという学校からの声が届いています。結果として多くの方の視聴が可能になっていると聞いています。

当研究会は、本県の特別支援学級及び通級指導教室を設置している小中学校・特別支援学校の教職員によって構成されています。研修会・講演会等を通して、新しい時代の特別支援教育の実現に向けた教育活動はどうあればよいかを共有できれば幸いです。今後も会員の皆様や関係機関の皆様との連携を密に取りながら、特別な支援を要する児童生徒に対する教育の充実を目指してまいります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

令和3年度 主な事業について

○理事会・評議員会

- 第1回理事会・評議員会(紙面による決議)
- 第2回理事会(紙面による決議予定)

○研究大会

- ◇上越地区北部大会(8月6日実施)
- ◇中越地区長岡大会(11月25日実施予定)
- ◇下越市区新潟市大会(11月25日実施予定)
- ◇佐渡地区大会(8月23日実施)

○研究部会研修会

- ◇知的障害部 ◇自閉症・情緒障害部
- ◇肢体不自由・病弱・身体虚弱部
- ◇言語・難聴部 ◇視覚障害部

○全特連関係

- ◇全国・関ブロ大会神奈川大会(誌上開催)

○会報

- ◇123号(10月)
- ◇124号(3月)

障害のある子供の教育支援



県教育長義務教育課
特別支援教育推進室
室長 山田 澄人

1 はじめに

会員の皆様には、本県の特別支援教育の推進にご尽力されていますことに感謝申し上げますとともに、新型コロナウイルス感染症拡大等への対応につきまして、子供たちの「命と健康を守りながら学びを止めない」という難題に精一杯取り組まれていることに心から敬意を表します。

2 国の特別支援教育に係る動向

我が国の障害のある子供と保護者及び関係者を取り巻く環境は、平成18年の「障害者の権利に関する条約」の採択以降、国際的な潮流も踏まえ、障害のある子供の就学先決定の仕組みに関する学校教育法の改正、特別支援学校や小学校等の学習指導要領の改正、高等学校等における通級による指導の制度化など、障害のある子供の自立と社会参加を見据え、子供一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるよう、多様な仕組みが整備されてきました。

また、今年1月には「新しい時代の特別支援教育に関する有識者会議報告」が取りまとめられ、我が国の特別支援教育に関する方向性が改めて示されました。そして、この6月には同有識者会議の報告を踏まえ、これまで就学手続き等に携わる関係者向けだった「教育支援資料」（平成25年10月）の内容について、障害のある子供の就学先となる学校（小中学校等、特別支援学校）や学びの場（通常学級・通級による指導・特別支援学級）の適切な選択に資するよう改訂が行われました。就学に係る一連のプロセスとそれを構成する一つ一つの取組の趣旨を、就学に係る関係者すべてに理解してほしいという文部科学省の願いから「障害のある子供の教育支援の手引」と名称も改められました。

新たな手引では、障害のある子供の「教育的ニーズ」を整理するための考え方や、就学先や学びの場を判断する際に重視すべき事項等が充実されており、本人、保護者、学校、教育委員会など多様な関係者が多角的・客観的に就学や必要な支援を考える際の指針となるものと考え

ます。

3 県の特別支援教育の現状と課題

県におきましては、年々少子化が進む中、特別支援教育を受ける子供たちの増加が続いております。特に、特別支援学級や通級による指導を受けている子供たちが急増しており、自閉症・情緒障害学級、発達障害通級指導教室の在籍者の増加が顕著となっております。

特別な支援を必要とする子供たちを早期に見出し、適切な支援を行っていくことは、その後の子供たちの成長・発達にとって、とても重要なことです。逆に、適切な対応が遅れば遅れるほど、子供たちの成長・発達は遅れ、ややもすると不適切な行動が助長されたり、心に傷を負ってしまったりすることになりかねません。改めて特別な支援を必要とする子供たちの早期発見・早期対応に努めていただくようお願いいたします。

また、就学先となる学校や学びの場の適切な選択が極めて重要になります。直接的には市町村の教育委員会の判断によるところが大きいのですが、特別支援教育を担当する先生方の見取りは大きな判断材料となります。文部科学省では共生社会の実現に向けインクルーシブ教育システムを推進しております。「障害のある子供と障害のない子供が可能な限り同じ場で学ぶこと（略）」のこのことを念頭に置き、一人一人の児童生徒が、授業内容が分かり、学習活動に参加している実感・達成感をもちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けることができる就学先や学びの場の判断が適切に行われるよう、一層ご尽力いただくようお願いいたします。

さらに、このような力を子供たちに付けるためには、「教育的ニーズ」に応じた適切な教育課程の編成及び個別の諸計画の作成が欠かせません。その際、「障害のある子供の教育支援の手引」や県教育委員会が作成している「特別支援学級のガイドライン」「個別の教育支援計画・個別の指導計画作成と活用のためのハンドブック」「通常の学級における特別な教育的支援事例集」等を活用いただくようお願いいたします。

4 おわりに

現在、コロナ禍の中にあり、子供たちに十分な活動を提供できない状況にあります。みなんで知恵を絞り、子供たちの力を伸ばすために、共に取り組んでまいりましょう。

令和3年度 県特支研 役員

※敬称略

会 長	江口 滋 (鏡淵小)
副 会 長	佐藤 人志 (南本町小) 小畑一二美 (裏館小) 阿部 隆一 (新潟市立東特別支援)
理 事	①村治 隆夫 (新井中央小) ②山賀 吉一 (大洲小) ③捧 信之 (千手小) ④小杉 洋一 (今町小) ⑤田村 剛 (北辰小) ⑥田中 恒夫 (新津第五中) ⑦間嶋 哲 (新津第一小) ⑧根岸 恵美 (万代長嶺小) ⑨田中 修二 (女池小) ⑩井上 正裕 (外ヶ輪小) ⑪小山 和浩 (神納小) ⑫山崎 浩志 (五泉小) ⑬長尾 謙治 (佐和田中) ⑭小林 俊明 (県立はまなす特別支援) ⑮月岡 秀也 (見附市立見附特別支援) ⑯池亀 守之 (県立西蒲高等特別支援)
会計監査	泉 豊 (糸魚川小) 小海 信幸 (新町小) 佐藤 元彦 (水原小)

令和3年度 県特支研 評議員

※敬称略

上 越	長谷川和彦 (飯小) 勝俣 将明 (八千浦中)	柏崎・刈羽	廣川 乗 (日吉小) 野沢 克之 (刈羽中)
糸 魚 川	田原 早苗 (大和川小)	妙 高	飯塚 教裕 (斐太北小)
長 岡 ・ 三 島	菊地亜弥子 (栖吉小) 菊地 雅樹 (大島中)	三 条	坪谷 秀雄 (長沢小) 土田 栄林 (第一中)
燕 ・ 弥 彦	細貝 岳 (燕西小)	加 茂 ・ 南 蒲	笠原 誠也 (田上小)
見 附	稲田 修 (名木野小)	小 千 谷	稲田真砂美 (小千谷市立総合支援学校)
十日町・中魚	大淵 英一 (川治小)	魚 沼	中俣 元美 (広神西小)
南 魚 沼	須田 雄一 (湯沢中)	新 発 田	澁谷 一男 (猿橋小)
北 蒲	六井 和幸 (蓮野小)	胎 内	小林 隆裕 (きのと小)
村 上 ・ 岩 船	村山 敬介 (関川中)	五 泉	永倉 浩二 (五泉北中)
阿 賀 野	五十嵐めぐみ (堀越小)	東 蒲 原	高松 豊 (津川小)
佐 渡	松本えりか (加茂小)	新 潟 ・ 北 区	坂内 徹 (南浜小)
新 潟 ・ 東 区	藤井 正人 (江南小)	新 潟 ・ 江 南 区	岡田 義則 (早通小)
新 潟 ・ 江 南 区	塩田 信明 (曾野木中)	新 潟 ・ 秋 葉 区	渡辺富美子 (新津第二小)
新 潟 ・ 南 区	和泉 哲章 (白南中)	新 潟 ・ 南 区	五十嵐重行 (新飯田小)
新 潟 ・ 西 区	星野 亨 (赤塚小)	新 潟 ・ 西 区	青木 清美 (山田小)
新 潟 ・ 西 蒲 区	堀川 善行 (升潟小)	視 覚 障 害	南 誠 (県立新潟盲)
聴 覚 障 害	西山 正樹 (県立長岡聾)	病 弱	生方 清司 (県立吉田特別支援)
肢 体 不 自 由	中静 康弘 (県立上越特別支援)	知 的 障 害	疋田 敦士 (新大附属特別支援)

県特支研のホームページをご覧ください

県特支研の役員、事業、会報などの情報
や特別支援学校へのリンクはこちらです。

地区大会や研究部研修会の情報はこちら
から。

全特連関プロ大会等の様子を紹介します。
全特連HPへリンクされています。その他、
新潟県の特別支援教育に関する情報をお伝
えます。

URL <http://www.niigata-inet.or.jp/kentokusiken/>

E-mail tokusi@niigata-inet.or.jp

令和3年度 各研究部研修会の活動報告

自閉症・情緒障害部 事務局：千手小学校

えじそんくらぶ代表 高山恵子様より「実行機能に弱さがある子どもたちへのサポート」の演題でご講演いただきました。私たちが目指す「令和の日本型学校教育」の構築に向けた個別最適な学びと事前の質問などを絡め「実行機能」について詳しく話していただきました。視聴された800名の方からは「見立てを丁寧に行い、子どもに合った手立てや課題をチームで考えていかなければいけない」「個別最適な学びを念頭に入れながら子どもに向き合いたい」等、夏休み明けの指導につながる感想が寄せられました。

肢体不自由・病弱・身体虚弱部 事務局：今町小学校

上越教育大学教授 笠原芳隆様より「余暇・学習本人活動に基づく卒業後の生活を見すえた自立活動+αの研究」についてご講演をいただきました。職業人・家庭人・余暇人・市民として生きることが生活の質を向上させること、そのためには子ども自身が選び決める力を身につけていることが大切なことを教えていただきました。卒業後の生活を見据え、子ども自身が選び決める場面を取り入れながら、自立活動などを充実させ、自己効力感を高めていくという授業改善の視点を与えていただいた研修でした。

言語・難聴部 事務局：万代長嶺小学校

宮城学院女子大学教授 梅田真理様より「発達障害のある子どもの理解と支援」というテーマでZoomを用いてご講演をいただきました。一人一人の子どもが自己有用感や自尊感情をもてるように、そして学級で認められるようにすること、そのためにチームで実態把握をして、その子に合った支援方法を見つけること等々、多くのアドバイスをいただきました。日頃一人で指導を行っている通級担当者にとって、子どもが学級での居場所を見つけることができるように、そしてそれが自立につながるということを考えさせられる有意義な研修会となりました。

視覚障害部 事務局：県立新潟盲学校

元長野大学教授 神尾裕治様より「視覚障害教育における『主体的・対話的で深い学び』の授業づくり」～不易と流行を踏まえた指導・支援～についてご講演をいただきました。触覚・視覚等の感覚の働きや視覚障害乳幼児・視覚障害児の発達過程や学びを促すために大切なこと、応答関係・因果関係理解の重要性など多くのことを学ぶことができました。授業で活用できる教材もたくさん紹介していただき、子どもたちと共に学び成長できる伴走者として日々研鑽を積んでいくことを部員全員で確認しました。

○知的障害部の活動報告は、会報124号にて紹介させていただきます。

県特支研だよりNo.「123号」をお届けいたします。ご多用の中、多くの皆様から玉稿を賜りました。感謝申し上げます。本号が特別支援教育の一助となることを願っております。 (事務局)